

与謝蕪村



■与謝蕪村 句碑・生誕地の碑

住所:大阪府大阪市都島区毛馬町3-7 毛馬堤防上

与謝蕪村 宰鳥(さいちょう)

江戸中期(1716~1793)毛馬より下流1km江戸中期の有名な俳人。

有名な「春風や堤長うして家遠し」これは蕪村62才の時に出した俳詩集「春風馬堤曲」(18首ある)の二番目の句です。ちなみに一句目は「藪入りや浪花を出でて長柄川」です。正月16日[※]藪入娘の道行を構想し、老蕪村のふるさと毛馬に対する深い郷愁をうたったものといわれている。けだし詩人[※]荻村朔太郎をして、郷愁の詩人といわれた所以である。

また、俳諧と共に絵画にも長じ多くのもの残し名をなした。しかし望郷の念やみがたかった彼も生家没落后毛馬を離れた後は、終生毛馬に帰ることなく「白梅に明るる夜ばかりとなりけり」辞世の句を残し68才の生涯を閉じています。(岩波・小学館・新潮社・講談社・明治書院 発行に詳しい)

付記

旧毛馬第一閘門、毛馬洗堰が平成20年6月9日に国の重要文化財に指定されている。〈竹中靖子〉

※【藪入り】 奉公人が正月又は盆の15日前後に主家から休暇をもらって親元に帰ること。当時は中津川を渡り毛馬の堤を5~6町北上

※【荻村朔太郎】 (1886~1942)詩集「青猫」「氷島」など、詩論や評論、古典研究を手がける。「郷愁の詩人と謝蕪村」著

淀川を渡る赤川鉄橋



■赤川鉄橋(写真:上田泰彦)

又余談乍ら都島区との境に今日では珍しい戦前からある古いトラス型のもので人と共に渡るめずらしい赤川鉄橋がある。まもなく複線化され客車が走り橋もなくなる。しかしここも戦禍の深いきずあとを残す。〈竹中靖子〉



■赤川鉄橋



■ワンド(背景の橋は菅原城北大橋)

淀川ワンドは昔、船が安全に渡航出来るようケレップ水制という工事で水の流れを調整していた。

さらに、だんだん舟の往来が無くなり、ワンドと呼ばれる湾に入り込んだ葦が茂りそれが、魚の卵を産み付ける貴重なスポット、自然の宝庫になった。30くらいのワンドが残るが昔は毛馬橋くらいからあった。〈竹中靖子〉